

氏名	小野哲一郎
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5018 号
学位授与の日付	平成26年 6月30日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Factors Associated with Remission and/or Regression of Microalbuminuria in Type 2 Diabetes Mellitus (2型糖尿病における微量アルブミン尿の寛解・改善に寄与する因子)
--------	---

論文審査委員	教授 山本 和秀 教授 成瀬 恵治 准教授 中村 一文
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

2型糖尿病患者の40%以上が有している微量アルブミン尿は、最も早期にみられる腎病変の徴候であり、心血管疾患（CVD）の危険因子でもある。本研究では2型糖尿病患者の微量アルブミン尿の寛解・改善に寄与する因子を明らかにすることを目的とした。

2型糖尿病患者で腎症2期（微量アルブミン尿期）の症例130名において、アルブミン・クレアチニン比を評価することで、微量アルブミン尿の経過観察を行った。

その結果、アルブミン尿が陰性化した症例（寛解）57例、減少した症例（改善）13例、増加した症例（進行）26例であった。多変量解析において性別（女性）、HDLコレステロール高値（ $\geq 50\text{mg/dl}$ ）、HbA1c低値（ $\leq 6.0\%$ ）が微量アルブミン尿の寛解・改善の独立した寄与因子であった。収縮期血圧低値（ $< 130\text{mmHg}$ ）は弱い関連性を示すが、統計学的に有意ではなかった。

血糖・血圧・脂質の総合的な管理が微量アルブミン尿の寛解・改善には必要であり、有効であると考えた。また、糖尿病性腎症の発症・進展率を減少させるために性別・年齢層別によって異なる介入方法が存在する可能性があり、詳細に検討していく必要があると考えた。

論文審査結果の要旨

本研究は、2型糖尿病患者の微量アルブミン尿について、その寛解・改善に寄与する因子を明らかにすることを目的に行われた。

2年以上経過観察がなされている腎症2期（微量アルブミン尿期）の2型糖尿病患者130症例について、微量アルブミン尿の陰性化例（寛解例）、減少例（改善例）、不変例、増加例（進行例）に分け、予後に影響を与える因子を後方視的に解析した。

その結果、性別（女性）、HDLコレステロール高値、HbA1c低値が微量アルブミン尿の寛解・改善の独立した寄与因子であった。収縮期血圧低値は弱い関連性を示すが統計的には有意でなかった。血糖・血圧・脂質の総合的な管理が微量アルブミン尿の寛解・改善に有効であることを明らかにした点で興味深い。

よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。